

3-1 事業概要

	処理施設	マンホールポンプ場	管渠
【現計画】 公共下水道事業	・早来処理区の計画処理水量は2,400m ³ /日で、現在の施設は半分の1,200m ³ /日であり、遠浅、安平の接続により、早来浄化センターの増設工事が必要となります。	・安平工業団地と安平市街の2カ所にマンホールポンプ場を設置し、早来浄化センターに圧送します。 ・ポンプ場では、汚水が一時的に停滞することから、硫化水素の発生が懸念され、この対応工事が必要となる可能性があります。	・早来浄化センターに接続するため早来市街から安平市街までの幹線整備(L=6.15km)が必要です。
【見直し案】 工場製作型極小規模処理施設	・施設は、安平市街地に設置。 ・工場で製作するユニット型(FRP製)のため、流量に合わせた増設ができるため段階的整備が可能です。	・安平工業団地を整備する際には工業団地側に1カ所マンホールポンプ場を設置し安平市街まで圧送します。	・処理施設を安平市街に設置するため幹線整備(L=6.15km)が不要です。
比較	・早来浄化センターは、増設が必要。(安平地区流入に関わらず増設必要)・処理施設の分散はランニングコスト上、割高となります。	・公共下水道では2カ所必要で、工場製作型処理施設では1カ所が必要です。	・安平市街地内の管渠整備の仕様は変わらないが安平早来間の幹線整備費が不要となります。

3-2 建設費比較 (安平地区のみ)

	事業費	事業期間	メリット・デメリット
【現計画】 公共下水道事業	概算 1,737,380千円	平成25年度 ～35年度	・維持管理が容易でランニングコストも低い。 ・事業費が高い。 ・安平早来間の下水道幹線整備の分、事業費や工期がかかります。
【見直し案】 工場製作型極小規模処理施設	概算 1,133,700千円	平成23年度 ～31年度	・事業費が安価で、維持管理も容易です。 ・設置後も施設規模の変更が可能です。(ユニット型) ・処理施設の設置が容易な分、接続も早い。 ・施設を分散する分、ランニングコストは割高になります。 ・処理施設が地区内に建設されます。

なっており、地区別の段階整備計画は中心市街地である早来地区から整備を始め、遠浅地区を行い、整備完了後に安平地区の整備をする計画としていた。2安平地区の下水道整備に向けた課題は、安平地区の下水道整備の要望が高

3-3 維持管理費比較 (安平地区のみ)

	単年度経費	50年経費の単年度(施設更新含む)
公共下水道事業	11,109千円	92,275千円
工場製作型極小規模処理施設	15,028千円	72,061千円

く、できるだけ早く整備に着手し供用開始することが望ましいことです。しかし、早来処理区へ汚水管を接続する場合、遠浅地区の整備や町政面から安平地区の供用開始までに長期間を要するため、水洗化要望が高い安平地区の住民に早期の供用開始を目指す。指しコスト削減効果が高く、さらに近年の人口減少傾向を考慮した手法が必要です。

3 課題解決に向けた検討
現計画と見直し案の比較については上記のとおりです。

4 計画案実現による影響等
工場製作型極小規模処理施設は、遠浅地区の管渠工事の規模を縮小し両地区を並行して整備するため遠浅地区の完了時期は2年程度延伸されます。

5 計画案検討結果
・建設費で約603、680千円安価に整備できます。
・初期投資費等と維持管理費を考慮した50年費用で約407、730千円安く整備できます。